

# マレーシアにおける盆栽類の輸出可能性調査

2018年3月

日本貿易振興機構（ジェトロ）

クアラルンプール事務所

関東貿易情報センター

**【免責条項】** 本報告書で提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本報告書で提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。

## 目次

1. マレーシアにおける盆栽の概要.....	1
1-1 盆栽文化（概要と盆栽市場）.....	1
1-2 需要家の状況.....	3
1-3 品種ごとの評価.....	23
1-4 価格相場（品種・学名・樹齢・サイズ・産地）.....	24
1-5 日本産盆栽に対する評価（良い評価・長所と悪い評価・短所、他国産との比較）.....	43
1-6 展覧会等の有無、開催状況.....	44
1-7 専門誌の有無、情報.....	49
2. 盆栽取扱業者（輸出入・卸売、小売）のリスト.....	50
3. 植物（盆栽）の検疫要件、輸入制度、規制等.....	67
3-1 概要解説と運用実態.....	67
3-2 関連法令リスト.....	72
3-3 関係法令のうち、関係部分の翻訳.....	72

## 1. マレーシアにおける盆栽の概要

### 1-1 盆栽文化（概要と盆栽市場）

マレーシアで「盆栽」が始まったのはいつ、どこだったのか。この質問をしたところ、「1950年代のマラッカだ」「1970年代のクアラルンプールだ」などの様々な回答を得、特定できなかったが、「1950年、60年代のマラッカ」との回答が多かった。マレーシア盆栽&水石協会（Malaysia Bonsai and Suiseki Society 以下、MBSS）の会長を務める Dato' Chua 氏からは、「1950年代にマラッカで国内初めての盆栽展示会が開かれ、シンガポール人盆栽師によるデモが行われた」という話も聞いた。マレーシアの歴史は、14世紀後半に建国されたマラッカ王国に始まると言われるが、「マレーシアの盆栽の歴史」においても、首都クアラルンプールではなく、マラッカが関係しているようだ。

50年代、60年代に始まったというマレーシアの盆栽文化について、当調査を通じて得られた情報から、「国内初のマレーシア盆栽協会（Malaysia Bonsai Society 以下、MBS）が発足する1986年まで」を第一期、「全国に盆栽園や盆栽クラブができ始める2005年まで」を第二期、2005年以降、「マレー系の愛好家が増え、全国で中小の盆栽展示会が開かれるようになった現在まで」を第三期として、以下、まとめてみた。

年代	概要
第一期 (~1980年代半ば)	<ul style="list-style-type: none"><li>・50年代にマラッカで最初の盆栽展示会が開かれる。</li><li>・国内で初めてと言われる盆栽園がマラッカに誕生。</li><li>・主に書籍から盆栽の情報を得ていた。</li><li>・日本の盆栽スタイルが主流だったが、その後台湾のスタイルが浸透する。</li><li>・盆栽愛好家のほとんどが中華系（50代、60代のお金と時間に余裕のある人たち）。</li><li>・一部の裕福な人たちの趣味。</li><li>・Min Hoe Yuen Bonsai Nurseries が中国産の「福建茶 Carmona Microphylla」及び台湾産の「ガジュマル」を輸入開始。</li></ul>
第二期 (1980年代半ば~2000年代半ば)	<ul style="list-style-type: none"><li>・1986年、国内で最初の盆栽団体 MBSS の前身 MBS が発足。</li><li>・1988年、MBS から MBSS に名称変更。</li><li>・MBSS 主催で盆栽展示会が開催される。</li><li>・展示会に台湾の盆栽師を招きデモを行う。</li><li>・ジョホールバル、ペナン、マラッカなど全国に盆</li></ul>

	<p>栽クラブができ始める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1995 年、ケランタン州コタバルに盆栽クラブが発足。</li> <li>・ 全国に盆栽園ができ始める。</li> <li>・ 盆栽の価値が高まる。</li> </ul>
<p><b>第三期</b> (2000 年代半ば～現在)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クアantan、トレンガヌなど東海岸に盆栽クラブができ始める。</li> <li>・ 2006 年、盆栽アーティストの団体「マレーシア盆景アートクリエイション協会」が発足。</li> <li>・ マレーシア独自の盆栽スタイルを追求しようという動きがスタート。</li> <li>・ 盆栽のマテリアルとして「山採り」に人気集中する。</li> <li>・ マレー系の愛好家が増える。(盆栽&amp;ストーンアカデミーNg 氏、Sanfong Bonsai &amp; Art Garden の Benny 氏からのヒアリングに基づく)</li> <li>・ 熱心な愛好家は中華系よりマレー系。(盆栽&amp;ストーンアカデミーNg 氏、Sanfong Bonsai &amp; Art Garden の Benny 氏からのヒアリングに基づく)</li> <li>・ 30 代の若い愛好家、中間所得者層が増えた。</li> <li>・ 盆栽の情報源は主にインターネット。</li> <li>・ Facebook (以下、FB) を通じて盆栽クラブの情報、展示会を発信している。</li> <li>・ 全国各地で盆栽展示会が開かれるようになる。</li> <li>・ 政府主催のフラワー展示会、農産品展示会に「盆栽」がテーマとして加えられるようになる。</li> <li>・ 中国、台湾、インドネシア、フィリピンなど海外で開催される展示会に、マレーシア人盆栽師が招待されデモを行う。</li> <li>・ 2017 年、さいたま市で開催された「世界盆栽大会」で二人のマレーシア人盆栽師がデモを行う。</li> </ul>

## 1-2 需要家の状況

### ① 盆栽に関連する協会・クラブ

マレーシアで歴史が最も古く、国の代表的な位置づけにある盆栽協会は、「マレーシア盆栽&水石協会 (MBSS)」である。盆栽クラブは国内各州にあり、全国合わせて少なくとも50の盆栽クラブが存在するといわれるが、それらのほとんどがMBSSの会員たちが地元で発足したクラブのため、MBSSや各クラブ同士のつながりは強い。盆栽愛好家のほとんどが掛け持ちでいくつものクラブに所属しているのが現状だ。以下はMBSSと調査を通じてコンタクトのとれた盆栽クラブである。

#### ●マレーシア盆栽&水石協会 (MBSS Malaysia Bonsai and Suiseki Society)



Dato' Chua 氏

No. 95, Jalan Rukun 5, Taman Gembira, 58200 KL

03-7981 3052

FB: Malaysia Bonsai and Suiseki Society

現会長 : Dato Chua (012-308 8282)

発足 : 1988 年

会員数 : 約 600 名

**歴史:** 前身は 1986 年に発足した「マレーシア盆栽協会 MBS Malaysia Bonsai Society」で、2 年後の 88 年に「水石」を加えた現協会を発足した。年数を重ねるごとに国内での「盆栽」への関心も高まり、会員数も増加。MBSS は現在、国内で最大規模の盆栽非営利団体である (団体登録法 1966 に従い登録済み)。\*アジア太平洋盆栽友好連盟 (ABFF Asia Pacific Bonsai Friendship Federation) のメンバーである。

**目的:** 盆栽愛好家たちが各自の盆栽に関する情報や活動を共有すること。①国をグリーン化するために盆栽・水石アートおよび関連活動を振興する。②盆栽と水石を通じて友好を深め

る。③会員更には広くマレーシア国民のために盆栽・水石展示会を主催する。④マレーシア国民に盆栽・水石アートを普及させる。

**活動**：毎週日曜日に開催する会合に加えて、展示会やトークイベント、ワークショップを行っている。展示会への参加者数は年々増えてきている。

会員間では、お互いの家を訪問し盆栽を見学、情報交換を行うなど、モチベーションを高め合っている。同協会のメンバーのなかには、台湾、中国、日本、フィリピン、インドネシアなどで開催される国際展示会に招待される盆栽師がいる。

**\*【アジア太平洋盆栽友好連盟とは】**

アジア太平洋盆栽友好連盟(ABFF Asia Pacific Bonsai Friendship Federation)は 2003 年 2 月 28 日にマニラで発足(同じ時期に第 7 回アジア太平洋盆栽水石大会 ASPAC がフィリピン盆栽協会主催で開催されていた)。同連盟のメンバーは、フィリピン盆栽協会、マレーシア盆栽&水石協会 MBSS、ベトナム・ナチュラル&トラディショナル・ビューティ協会 (Vietnam Natural and Traditional Beauty Association)、台湾ナショナル盆栽協会、韓国小品盆栽協会、シンガポール盆景&ストーン協会、インドネシア盆栽協会である。

「アジア太平洋」という名称は、2001 年 6 月 3 日にミュンヘンで開催された第 4 回世界盆栽友好連盟(WBFF)の理事会で認定され、同連盟は同地域を象徴するために同名称を使用。「アジア太平洋」という名称でありながら、中国、日本、オーストラリア、ニュージーランドは、各国とも WBFF における区域として位置づけられているため、ABFF に含まれていない。2015 年～17 年まで、当時 MBSS の会長であった Dato' Pui Khiang Khang 氏が会長を務めた。(http://wbffbonsai.com/index.html より抜粋)

●マレーシア盆景アートクリエーション協会 (MPACS Malaysia Penjing Art Creation Society)



Michael 氏

No.17, Lorong jambu 4, Taman Sri Delima, Off Jalan Kuching, 52000 KL  
03-6257 9873

FB: Malaysia Penjing Art Creation Society

会長：Michael Siow（創立者）

Michael 氏は国内で最も著名な盆栽師の一人だが、自らを「盆栽師」ではなく「盆栽アーティスト」だと呼んでいる。学生時代を台湾で過ごした時に盆栽に興味をもち、数々の盆栽師と出会う。帰国後エンジニアとして働くが退職し、盆栽の道に進んだ。1991年にMBSSのメンバーに。アジア近隣国で開催される盆栽展示会に招待され、デモを行ってきた。2017年、さいたま市で開催された「世界盆栽大会」でもデモを行った。

発足：2006年

会員数：60名

目的：①「盆栽アーティスト」たちを集結し、一緒に「マレーシア・オリジナル」の盆栽スタイルをつくりあげ、盛り上げる。そのために知識・情報を交換し合う。②若手のアーティストを育成する。③盆栽アートを国内に広める。

活動：不定期ではあるが、Michael 氏の「盆栽ギャラリー」でメンバーを集めて情報交換をしている。





同協会のメンバーの一人、Lai さん（74 歳）は現役の墨絵画家。盆栽は 20 年前に始めた。自慢の盆栽は樹齢 36 年になるウォータージャスミンだ。

●セラングール盆栽・水石クラブ（SABAS Selangor Bonsai Art & Suiseki）



Yusoffi 氏

FB : SABAS

代表 : Yusoffi Bin Abdul Aziz（創立者）

ペラ州出身の Yusoffi 氏は、15 歳のころからブーゲンビリア好きの母親の影響を受けてガーデニングに興味を覚えたが、それが後に盆栽へとシフトした。購入した盆栽の本や雑誌は中国語だったので内容は理解できなかったが、写真を見て盆栽のスタイルを学んだ。卒業

後、KLのテレコムマレーシアでエンジニアとして働くようになってからも、数々の盆栽園を訪ね、Sanfong Bonsai & Art GardenのBenny氏と出会ってから、盆栽の世界が広がったという。2005年に開かれた展示会に初めて出展し、賞をとったことで、盆栽への興味がさらに膨らんだ。

「盆栽は仕事のストレスを解放してくれる。夕方帰宅して、盆栽を前にトリミング、ワイヤリングをしているとあっという間に時間が経つ。妻も盆栽を始めるようになった」。

始めた当初は、本や雑誌を真似していたが、今では「ジャングル、自然」というテーマでオリジナルスタイルの作品づくりをしている。家には5品種80鉢の盆栽がある。好みの品種は、「ウォータージャスミン」、「ゲッキツ」、「タイワンウオクサギ」、「香松」、「ハマボウ」、「タマリンド」、「モクマオウ」など。MBSSのメンバーでもある。

発足：2014年

会員数：250名

目的：マレー系マレーシア人に盆栽の魅力を知ってもらうために設立。会員はマレー系に限定していないが、現在は会員の100%がマレー系だ。

Yusoffi氏によると、「マレー人はシャイな人が多い。とくに、盆栽を始めてみたいなどビギナーのマレー系は、上級者が所属している既存の盆栽協会に入りづらいと思っているようだ。そんなマレー系の人たちを集めて盆栽教室を自宅で始めたのが、クラブを発足したきっかけだ。マレー系のコミュニティに盆栽アートを広めていきたいと思っている」。

活動：毎月、第一週の週末に、会員の家を集まって盆栽教室を開くなどの交流会をしている。会場（家）は持ち回りである。

### ●マレーシア・クアantan盆栽クラブ (Bonsai Club Kuantan, Malaysia)

代表のDannie氏からは会員数しか回答してもらえなかった。同クラブのFBを見ると頻繁に更新されていて、他の盆栽クラブ同様、順番に会員間の家を訪問するなどの交流活動を行っているようである。

FB：Bonsai Club Kuantan, Malaysia

会員数：135名

代表：Dannie Loong Siew Fang（創設者）

発足：—

目的：—

活動：—

## ●盆栽&ストーンアカデミー (Bonsai N Stone Academy)



Ng 氏

同アカデミーは会員制組織ではなく、主に盆栽に関するイベントを手がけている。

No.4-3, Jalan 30/70A, Desa Sri Hartamas, 50480 KL

03-2858 7388/019-337 2539

HP : [www.bonsaistone.com.my](http://www.bonsaistone.com.my)

代表 : Ng Ing Suan (創設者)

設立 : 2008 年

目的 : ①国内に盆栽文化を普及する。②マレーシアの盆栽文化を世界に発信する。

活動 : ①ビギナーから上級者を対象にさまざまな盆栽教室や、ワークショップを開催。②海外から盆栽師を呼び、ワークショップを開催。③盆栽愛好家への動機づけや育成のために盆栽コンペや、展示会を開催。

歴史 : Ng 氏は 20 年以上の盆栽愛好家で、過去に MBSS の副会長も務めたこともある。現在も同協会のメンバーではあるが、協会とは別に同アカデミーを立ち上げ、「盆栽に興味があればだれでもウェルカム」という立ち位置。発足以来さまざまなイベントを手がけてきた。2012 年からクアラルンプール・シティーホール (Dewan Bandaraya Kuala Lumpur、以下 DBKL) が開催するイベント「クアラルンプール・オーキッド&盆栽ショー」に協力。同イベントはクアラルンプール市長はじめ、国王や大臣などの VIP も参加するなどの盛り上がりを見せている。

同アカデミーは 2008 年に、世界的な盆栽クラブである\*BCI より BCI マレーシア大使として認定された。現在、2018 年 4 月に開催される「2018 BCI 国際友好ツアー展示会」を準備中である。同展示会では、世界 20 カ国からの参加を見込んでいる。

### \*【BCI とは】

BCI (Bonsai Clubs International) は 1963 年にアメリカで発足した「盆栽と水石に関

する」非営利団体である。個人、事業主、盆栽クラブなど世界中に会員をもち、盆栽関連情報を提供、シェアするほか、中国、ヨーロッパ、オーストラリア、アメリカなどで盆栽展示会を開催。季刊誌『bci』を発行している。マレーシアの会員数は約 100 名。

(BCI ホームページより)

HP : [www.bonsai-bci.com](http://www.bonsai-bci.com)

FB: Bonsai Clubs International

### ●Persatuan Seniman Bonsai Malaysia



左端が Bohori 氏

ケランタン州コタバルにある盆栽クラブ

Lot748, Jalan Pasir, Pintu Geng, 15100 Kota Bharu, Kelantan

FB : Persatuan Seniman Bonsai Malaysia

FB : Matyie Che Makhtar

代表 : Bohori Che Makhter

発足 : 1995 年。発足当時の名称は「Persatuan Seniman Bonsai Kelantan」だったが、2000 年に現在の名称に変更。

会員数 : 200 名。マレー系がほとんどだが、中華系、インド系の会員もいる。10 代から 70 代まで年齢層も広い。

目的 : 盆栽アートの普及。真剣に盆栽づくりを学びたい人を対象としている。

活動 : ①盆栽展示会の開催 (コタバル、ペナン、ランカウイなど各州・都市で開催される政府主催のフラワーフェスティバル、農産品・観光ショーなどに協力し盆栽ブースを出している)。②山採りが目的の盆栽レースの開催。③会員各家順番でワークショップを開催。

## 【番外】

### \* Bonsai Homestay Kluang

ジョホール州クルアンにある「盆栽」をテーマにしたホームステイ（民宿）。

No.19, Lorong Seraya, Yap Tau Sah, 86000 Kluang, Johor

12-791 8566/ 012-716 0269/012-794 8566

HP : [www.bonsaihomestaykluang.com](http://www.bonsaihomestaykluang.com)

FB : Bonsai Homestay Kluang 居銓盆栽民宿

創業 : 2015 年

代表 : P.S. Chong

概要 : 20 年以上にもわたる盆栽愛好家の Chong 氏ファミリーが経営する民宿。Chong 氏は 2008 年にジョホールバルのダンガベイで盆栽ショーを主催したこともある。宿泊ほか、誕生会、結婚披露宴などのイベントとしても利用されている。(同ホームページより)

## ② 盆栽愛好家の数

盆栽愛好家の数は、現在 3,000~4,000 人と推計され、ここ 10 年の間で増えてきたという。この数字は、国内の盆栽クラブの会員数の合計である。

国内で盆栽イベントを手がける盆栽&ストーンアカデミーの Ng 氏によると、「全国の盆栽クラブに所属する会員総数は 3,000~4,000 人はいるが、そのうち、展示会に出展するなどの熱心な愛好家は 1,000 人にも満たないのではないかと。盆栽イベントへの出展者数だけをみれば、2009 年に開催された MBSS 主催の盆栽イベントの出展者は 100 名ほどだったが、8 年後の 2017 年に開催された Malaysia Wood Art, Suiseki & Floral Design Competition & Exhibition では、3 倍の約 300 名が出展した」という。

## ③ 一般的な愛好家像

以前は中華系マレーシア人がほとんどで、50 代、60 代の実業家、あるいはお金も時間も余裕のある定年退職者であったが、最近は 30 代の現役サラリーマンがアフター 5、あるいは週末に、「気分転換になる」「癒される」「集中力がつく」などの理由から、趣味として始める人たちが増えた。またマレー系の愛好家が増え、彼らは中華系以上に熱心に取り組んでいるという。マレー系は一般的に「芸術的センスのある」民族だともいわれている。なかには後述の Noryadi 氏のように盆栽を始めて 4 年後に賞をとり、現在、盆栽師として海外の展示会でデモを行うマレー系も出始めた。愛好家の中でも、高価な盆栽を収集する「コレクター」は、依然中華系の富裕層が大部分を占めているようだ。

愛好家のほとんどが地元や地元以外の盆栽クラブにも所属し、ほかの愛好家たちと交流を深め、旅行を兼ねて、中国や台湾、日本などで開催される展示会を見学している。

当調査で盆栽愛好家像について聞いたところ、以下のような意見が聞かれた。

・昔は引退後の中・高齢者で、ある程度お金に余裕のある人たちが主な愛好家であった。今は 30 代でも熱心な愛好家が増えたが、「盆栽コレクター」は相変わらずお金に余裕のある人たちがほとんどだ。マレー系の愛好家が増えたが、そのほとんどがお金儲けのために盆栽をしているようだ。(Sanfong Bonsai & Art Garden の Benny 氏)

・マレーシアの愛好家のほとんどが男性だが、彼らが既婚者の場合、妻も影響を受けて始めるケースもなくはない。海外の展示会で各国の盆栽クラブと交流をもったが、会員のほとんどが男性。唯一、インドだけが女性の会員数が男性を上回っていたのには驚いた。(Sanfong Bonsai & Art Garden の Benny 氏)

・盆栽ショーに出展するなどアクティブな愛好家は中華系が多い。ほとんどの愛好家は趣味の領域を超えていない。(Sanfong Bonsai & Art Garden の Benny 氏)

・愛好家にはインド系はほとんどいない。(Sanfong Bonsai & Art Garden の Benny 氏)

・愛好家には「盆栽園」「盆栽師」「バイヤー」の категория が挙げられる。盆栽園は全国に 30 前後。なかには Soon Li Bonsai Nursery や Chong Hon Thong 盆栽園のように、盆栽を趣味で始めて数々のコンペで優勝し、有名な盆栽師になってから盆栽園を開業するケースもあるが、ほとんどの盆栽師は作品が増え続け収拾がつかなくなると、自宅を開放して作品(盆栽)を売っている。盆栽師は現在、全国に 200~300 人はいると思うが、その 9 割が働きながら作品をつくっている。マレーシアでは、台湾あるいはローカルの盆栽師から盆栽を学び、自身の作品が盆栽コンペで賞をとったら、「盆栽師」と称される。バイヤーには高額な盆栽を集めるコレクターと、盆栽をするためのマテリアルとして盆栽を買う人たち(趣味の領域)がいる。愛好家の中でも、高価な盆栽を収集するコレクターは富裕層がほとんどで、自身で盆栽を手入れすることはなく、専属の庭師に手入れを任せている。(盆栽&ストーンアカデミーの Ng 氏)

・ここ 10 年でマレー系の愛好家が増えた。40 年前は 99.9%が中華系だったが、今では 40%をマレー系が占めている。なかでも東海岸に住むマレー系の愛好家数が多い。もともとマレー系は手先が器用で、アーティスティックな人たちが多く、ワークショップを開くととても熱心に学んでいる。(盆栽&ストーンアカデミーの Ng 氏)

・マレー系の愛好家は盆栽のマテリアルを自分で採る「山採り」をする人が多い。「香松(Cucur Atap)」がマレー系の間で人気なのは、香松を山採りし、マテリアルを買う必要もなく無料でできるからだ。(盆栽&ストーンアカデミーの Ng 氏)

・今では、FB などソーシャルメディアを使って交流を図ったり、情報を入手する愛好家たちがほとんどだ。以前はインターネットもなく、盆栽の本で独学するか、口伝えで聞いた盆栽師を訪ねて学ぶしかなかった。(盆栽&ストーンアカデミーの Ng 氏、Sanfong Bonsai & Art Garden の Benny 氏、Soon Li Bonsai Nursery の アドケン氏)

・マレー系の間で、盆栽の人气が高くなってきている。マレー系はビギナーでもすぐに上達する。盆栽園を始めた 50 年前は、趣味で始めて「日本のスタイル」をフォローする富裕層の中華系の愛好家がほとんどだったが、今では富裕層だけでなく誰でも盆栽を始め、自己流

で楽しんでいる人たちがいる。(Min Hoe Yuen Bonsai Nurseries の Chong 氏)

・マレーシアの盆栽マーケットは小さく、せいぜい 3,000 人くらい。そのほとんどが趣味で盆栽をやっている人だ。(MBSS 前会長、Dato' Pui 氏)

・昔から田舎に行けばたいていの家の庭にはブーゲンビリアなどの鉢が置いてあった。盆栽の素材はなんでもいい。家庭の主婦たちが鉢の手入れをしているが、これも盆栽だといえるのではないか。(MBSS 前会長、Dato' Pui 氏)

・ほとんどのマレーシア人愛好家は「盆栽はこうあるべきだ」などといった討論は好まない。皆、好きなスタイルで盆栽をやっている。(MBSS 前会長、Dato' Pui 氏)

・昔は 40~60 歳の、引退してお金も時間も余裕のある人たちがほとんどだったが、10~15 年くらい前から 30 代、40 代の人たちも盆栽に興味をもち購入するようになった。(Soon Li Bonsai Nursery のアドケン氏)

・20 年前は中華系がほとんど。今はマレー人の愛好家が増えている。(マレーシア盆景アートクリエイション協会の Michael 氏)

#### ●Danny Wong Choon Cheon (73 歳)



ネグリスンビラン州スレンバン市に住む Danny 氏が盆栽コレクションを始めたのは 15 年前に広い庭付きの家を購入し、転居後のこと。もっぱら盆栽園から気に入った盆栽を購入していたが、5 年前から自身でも盆栽をやり始めた。実業家であったが、引退し時間がもてるようになったからだ。MBSS のメンバーになり、盆栽愛好家たちとの交流を深め、彼らと一緒に日本、韓国、中国、フィリピン、インドネシアなど海外で開催される盆栽展を訪れたり、マレーシア人の盆栽師に盆栽を学んだ。

2年前に台湾の盆栽師・Lee Chong Hong 氏から盆栽を学んだ。昨年、MBSS 主催で開かれたジョホール州での盆栽展示会で金賞を受賞（10年前に購入した台湾産真柏）。自宅の庭を飾る盆栽は10種、100鉢以上を数える。現在、MBSSの副会長を務める。

お気に入りの盆栽は購入後13年間手入れをしている樹齢25年の「ウォータージャスミン」、5年前に購入した台湾産の樹齢15年以上の「真柏」、15年前に購入しすべて自分で世話をしてきた「香松」、樹齢15年以上の台湾産「ブーゲンビリア」だ。

過去に、日本産の五葉松を2度購入したこともあった。「購入後に展示会に出展して、金賞をとったが、その後3、4ヵ月で枯れてしまった。日本の盆栽はクオリティが高く、キュートだと感じるが、マレーシアで育てるのは難しい」。

盆栽の手入れは自身のほか、定期的に庭師の Hoi 氏にまかせている。





\*上の写真はウォータージャスミン。中国正月 30 日前に葉っぱをすべてとり、中国正月に葉を満開にさせるのが目的。

#### ④ 有名な愛好家

##### ●Dato' Chua



MBSS 現会長。クアラルンプール市内の高級住宅地・ケニーヒル地区に自宅を構える。Dato' Chua 氏は、クアラルンプール市内にある私立校数校を経営する実業家である。日本製の盆栽道具を日本で購入し、自身で盆栽の手入れをするが、「展示会への出展には興味がない」と語る。日本、台湾、中国などで開かれる盆栽展示会を訪れて、各国の盆栽文化に触れるのが好きで、なかでも小林國雄氏など日本の盆栽師の作品に感銘を受けているという。

3年前に日本でサツキを購入しマレーシアへ持ち帰ったが、2ヵ月後に枯れてしまったが、「枯れる前に枝を切って植えたサツキが元気に育っている。土は日本産の赤玉を使用。日本の盆栽の『ワビサビ』に感銘し、好きな盆栽スタイルは、ナチュラル。人工的ではなく、野生感溢れる盆栽が気に入っている。ジン、シャリのある盆栽が好きだ」。だから山採りの盆栽にも目がない。

Dato' Chua 氏のコレクションには、マレーシア産の「カキノキ属 *Diospyros Ferrea*」、樹齢 30 年の台湾産「エノキ」、樹齢 10 年の台湾産「真柏」、マレーシア産山採りの「タイワンウオクサギ」、「ウォータージャスミン」、日本産「カエデ」（5年前にさいたま市大宮盆栽美術館で購入）、高松で購入した「五葉松」、マレーシア産「香松」、樹齢 100 年・台湾産山採りの「ハイビスカス」、苗から育てたアメリカ産「黒松」、「カキノキ属 *Diospyros Ferrea*」、日本産「サツキ」、マレーシア産「ブドウの木」、台湾産「ガジュマル」、フィリピン産「Pemphis

Acidula」、マレーシア産「ゲッキツ」、マレーシア産「金豆（キンズ）」、インドネシア産山採りの「Asam Sarap」などがある。



タイワンウオクサギ *Premna Obtusifolia*



イブキ *Juniperus Chinensis*



ゲッキツ *Murraya*



カキノキ属 *Maba*



ウォータージャスミン *Wrightia Religiosa*



カエデ Japanese Maple



香松 Cucur Atap



竹 Japanese Bamboo



イブキ Juniperus Chinensis



台湾ウオクサギ Premna Obtusifolia



ウォータージャスミン *Wrightia Religiosa*



クロマツ *Black Pine*



⑤ 盆栽師

●Bohori Che Makhtar 氏



中華系の血も入っているという Bohori 氏はケランタン州コタバル出身の 57 歳。マレー系愛好家の間で最も尊敬されている盆栽師である。ナーサリー（苗圃）を経営している友人の影響を受けて 1992 年に盆栽を始めた。最初は中国語の盆栽本を購入し、虫眼鏡で細部まで写真の中の盆栽を観察するなど独学だったが、「ウォータージャスミン」のパイオニアとして知られていたジョホール州バトウ・パハに住む盆栽師 Lim Meng Chai 氏のところに 3 年間通い詰め、盆栽を学んだ。最初の作品はウォータージャスミンである。1995 年に盆栽クラブを立ち上げ、2 年後の 1997 年には仕事を辞め、盆栽一筋に。BCI 主催の展示会など数々の展示会で賞をとった。

Bohori 氏は「山採りの香松」のパイオニアとしても知られ、今でも定期的にジャングルに行き香松を採取している。盆栽のスタイルは「文人木」だが、日本と中国、そして自己流のコンビネーションを目指しているという。「山採りの香松はジン、シャリがある。生と死のコンビネーションが素晴らしい。葉は真柏よりも美しいと思う」。木を見てポテンシャルがあると思ったら、まずはスケッチをして、盆栽を始める。仕上がるまで最低 3 年間はかかるという。



盆栽の写真はすべて Bohori 氏から提供。

●Noryadi Noruddin 氏



現在国内で一番ホットな盆栽師といわれる Noryadi 氏は、ケラantan州コタバル出身のマレー系マレーシア人で、セランゴール州スミニエで働く現役の銀行マンでもある。「ピースフル・ホビー」として盆栽を始めたのは 1997 年。オリジナルのスタイルを築き上げ、展示会で数々の賞を受賞してきた。数年前にインド、フィリピンで開催された展示会でデモを行ったほか、2017 年には台湾で開催された「BCI International Convention 2017」と埼玉県で開催された「世界盆栽大会 2017」でデモを行った。この世界盆栽大会では、盆栽作家・木村正彦氏から「彼の作品のコンセプトを日本に紹介したい」とコメントをもらったという。

前述の Boholi 氏のもとで盆栽を学んだという Noryadi 氏のスタイルは「自然」。マレーシア半島の東海岸に位置するケラantan州は自然豊かな州である。今でも毎月一回ジャングルトレッキングをしているという。

「私の作品のイメージは、樹木が自然のなかで生息する姿。ジャングルトレッキングをしながら、樹木の形や動きを観察しています」。好きな品種は「香松」、「ウォータージャスミン」、「ゲッキツ」、「ツゲ属 *Buxus Harlandi*」、「タイワンウオクサギ」で、使うマテリアルはほとんどが山採りだ。MBSS、BCI マレーシアの会員でもある。









\*写真はすべて本人提供。写真上はさいたま市で開催された「世界盆栽大会 2017」のデモ（フジ属 Wisteria）の様子。マレーシア人盆栽アーティスト Michael 氏と一緒にいった。

### 1-3 品種ごとの評価

調査のために取材した業者、愛好家からのヒアリングに基づく評価について以下に記載する。

#### ①好まれている品種と、その理由

##### 【マレー系第一位】

・香松 Cucur Atap（マレーシア産）：見た目が美しく、かつ手入れが簡単。山採りすればマテリアル代が無料。

##### 【中華系第一位】

・真柏：中華系の多くが台湾の盆栽の影響を受けているため、台湾でも人気の真柏がそのままマレーシアでも人気である。「日本の五葉松はすばらしいが、マレーシアでは気候などの違いから、手入れができないのが残念だ」という声も多々聞かれた。

##### 【そのほか中華系・マレー系ともに好まれている品種】

理由はどれも見た目が美しく、手入れが簡単であることが挙げられている。

・ウォータージャスミン（マレーシア産）：小さな花がキュート。いい香りがする。手入れが簡単。

- ・ゲッキツ（マレーシア産）
- ・ツゲ（マレーシア産）
- ・タイワンウオクサギ（マレーシア産）
- ・イヌマキ（台湾産）：葉っぱが多いから。

## ②嫌われている品種と、その理由

嫌われている品種は「ない」との回答がほとんど。

- ・ガジュマル：創業 30 年の Min Hoe Yuen Bonsai Nurseries の Chong 氏によると、昔は人気だったが、「早く育ちすぎる」との理由から、今は人気がなくなっている。

### 1-4 価格相場（品種・学名・樹齢・サイズ・産地）

当調査で取材した盆栽園では、盆栽の価格については、「おおよその価格帯」、あるいは「答えられない」という回答がほとんどだった。答えられない理由としては、「アーティスト性」「売れたときの樹齢（何年手入れしてきたか）」などから、価格はその時々、お客との交渉次第だからということであった。

以下は、答えてくれた Chong Hon Thong 盆栽園のトップ 4 の価格と、クアラルンプール市内のショッピングモールに店舗をもつ Zen Bonsai のトップ 5 の価格、Soon Li Bonsai Nursery の売約済みの盆栽価格である。

サイズについては、マレーシアでの盆栽サイズ、ミニチュア（10cm 以下）、小（10-35 cm）、中（35-70cm）、大（70-120 cm）に従った。



**Chong Hon Thong 盆栽園**

品種&学名：Wang Jing

産地：台湾

樹齡：15年

価格：マレーシア・リングギ（以下、RM）1,900

サイズ：中



**Chong Hon Thong 盆栽園**

品種&学名：エノキ *Celtis Sinesis Pers* (毛朴)

産地：台湾

樹齡：13年

価格：RM3,800

サイズ：中



**Chong Hon Thong 盆栽園**

品種&学名：台湾ウオクサギ *Premna Serratifolia* (寿娘子)

産地：マレーシア (クアラトレンガヌ)

樹齡：70年以上

価格：RM5,000

サイズ：中



**Chong Hon Thong 盆栽園**

品種&学名：イブキ *Juniperus Chinensis*

産地：台湾

樹齡：－

価格：RM50,000(15年前に台湾から輸入したときの値段はRM25,000)

サイズ：中



### **Zen Bonsai**

品種&学名：ウォータージャスミン *Wrightia Religiosa*

産地：マレーシア

樹齢と価格：10～15年 (RM1,288)、8～9年 (RM1,168)

サイズ：ミニチュア





### **Zen Bonsai**

品種&学名：Nuva Pine

産地：台湾原産

樹齡と価格：5年（RM298）、8年（RM768）、10～12年（RM868）

サイズ：ミニチュア



### **Zen Bonsai**

品種&学名：イブキ *Juniperus Chinensis*

産地：台湾原産

樹齡と価格：5～6年 (RM568)

サイズ：ミニチュア



### **Zen Bonsai**

品種&学名：タイワンウオクサギ *Premna Obtusifolia*

産地：マレーシア

樹齢と価格：8年 (RM468)

サイズ：ミニチュア



Zen Bonsai

品種と学名：ツゲ Buxus

産地：－

樹齢と価格：10～15年（RM768）、6年（RM568）

サイズ：ミニチュア



**Soon Li Bonsai Nursery**

品種と学名：ウォータージャスミン *Wrightia Religiosa*

価格：RM4,000

サイズ：小



**Soon Li Bonsai Nursery**

品種と学名：ウォータージャスミン *Wrightia Religiosa*

価格：RM35,000

サイズ：中



**Soon Li Bonsai Nursery**

品種と学名：ウォータージャスミン *Wrightia Religiosa* (写真左)、ツゲ *Buxus* (写真右)

価格：RM14,000 (左)、RM4,000 (右)

サイズ：大 (左) と中 (右)



**Soon Li Bonsai Nursery**

品種と学名：イブキ *Juniperus Chinensis*

価格：RM4,600

サイズ：中



**Soon Li Bonsai Nursery**

品種と学名：ウォータージャスミン *Wrightia Religiosa*

価格：RM15,000

サイズ：中



**Soon Li Bonsai Nursery**

品種と学名：ウォータージャスミン *Wrightia Religiosa*

価格：RM25,000

サイズ：中





**Soon Li Bonsai Nursery**

品種と学名：台湾ウオクサギ *Premna Serratifolia*

価格：RM16,000

サイズ：大



**Soon Li Bonsai Nursery**

品種と学名：台湾ウオクサギ *Premna Serratifolia*

価格：RM12,000

サイズ：中



**Soon Li Bonsai Nursery**

品種と学名：イブキ *Juniperus Chinensis*

樹齢：15年前に輸入

価格：RM3,000

サイズ：中



**Soon Li Bonsai Nursery**

品種と学名：イブキ *Juniperus Chinensis*

樹齡：35年

価格：RM6,000

サイズ：中



### Soon Li Bonsai Nursery

品種と学名：イブキ *Juniperus Chinensis*（台湾産）

樹齢：15年前に輸入

価格：RM35,000

サイズ：中

マレーシアでは、盆栽園や Zen Bonsai のような小売店のほか、以下のオンラインショップでも盆栽や苗木が売られている。

- [www.lelong.com.my](http://www.lelong.com.my)

マレーシア発の E コマース。消費者間の「売り」「買い」をオンライン上で決済、手ごろな価格帯で1万点以上のアイテムを掲載している。

- [www.mudah.my/Malaysia/](http://www.mudah.my/Malaysia/)

ノルウェイの Telenor グループが手掛ける、前述の Lelong.com と同様、「売り」「買い」専門の E コマースである。Mudah マレーシアは、シンガポール系企業の 701Search Pte. Ltd. が運営している。

### 1-5 日本産盆栽に対する評価（良い評価・長所と悪い評価・短所、他国産との比較）

MBSS 現会長の Dato' Chua 氏から、「盆栽愛好家なら誰でも日本産の盆栽を欲しがっている。しかし高い値段をかけて購入しても2、3年で枯れてしまうので、誰も手が出せない。品種によってはマレーシアの気候でも育つものがあるかもしれないので、例えば真柏、黒松など試験用として提供してくれるとうれしい」とのコメントをもらった。

	良い評価・長所	悪い評価・短所
日本産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹齢の長い盆栽が多い。</li> <li>・盆栽に哲学が感じられる。</li> <li>・スキル(プロフェッショナル性)が高い。</li> <li>・アーティスティックで歴史がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気候、水、土壌が違うため、2～3年で枯れてしまう。</li> <li>・値段が高い。</li> <li>・手入れが難しい。</li> </ul>
中国産		<ul style="list-style-type: none"> <li>・気候、水、土壌が違う。</li> <li>・クオリティはそれほど高くない。</li> </ul>
台湾産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気候が似ているので育てやすい。</li> <li>・真柏は人気が高い。</li> <li>・値段が手ごろ。</li> <li>・クオリティが高い。</li> <li>・ニュースタイルの盆栽アート。</li> </ul>	
インドネシア産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クオリティは悪くない。</li> <li>・気候が似ているので育てやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い木が多い。</li> </ul>
フィリピン産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気候が似ているので育てやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マレーシアと比べて、クオリティが低い。</li> </ul>

#### 【参考】マレーシアで育つ盆栽品種リスト

\*以下は、MBSS 現会長、Dato' Chua 氏より提供。日本の盆栽アーティスト山田氏、いとう氏、ほそはら氏が認めた「マレーシアで育つ盆栽品種リスト」である。

- ・イブキ Juniperus Chinensis
- ・真柏 Shimpaku Juniper
- ・カエデ Japanese Maples
- ・アザレア Satsuki Azalea
- ・ブーゲンビリア Bougainvillea
- ・ゲッキツ Murraya Paniculata

- ・フィカス（イチジク属） Ficus
- ・キンカン Golden Bean Kumquat
- ・山丹花 Chinese Ixora
- ・フクマンギ Ehretia Microphylla
- ・アセロラ Malpighia Punicifolia
- ・タイワンウオクサギ Premna Obtusifolia
- ・ウォータージャスミン Wrightia Religiosa (Water Jasmine)
- ・オオハマボウ Hibiscus Tiliaceus
- ・エノキ Celtis Sinensis
- ・ケヤキ Zelkova Serrata
- ・ヤエヤマコクタン Diospyros Ferrea
- ・イヌマキ Podocarpus Costalis
- ・カメリア Camelia
- ・モクマオウ Casuarinas Equisetifolia
- ・翠米花 Eurraya Emarginata
- ・グミ Elaeagnus Oldhamil

#### 1-6 展覧会等の有無、開催状況

国内で開かれる展示会、ワークショップなど盆栽関連のイベントは、盆栽クラブのある地区・州レベルで開催されるイベントを含めると、2、3 ヶ月に1回の頻度で開催されているようだが、出展者が100人を超える大規模な盆栽展示会は年に数回と、まだ少ないようだ。盆栽関連のイベントの主な目的は、プロ・アマ問わず、愛好家が情報交換や友好を深めること、お互いのスキル・技術の向上、国内の盆栽文化の普及などである。

#### ●クアラルンプール・オーキッド&盆栽ショー Kuala Lumpur Orchid & Bonsai Show

2012年以前はDBKL主催の「オーキッドショー」が開かれていたが、2012年、2014年、2015年には盆栽&ストーンアカデミーの協力のもと「盆栽」がテーマに加わり、「オーキッド&盆栽ショー」に名称が変わった。2015年からは2年に1回の頻度で開かれるイベントとなった。

主催：DBKL

協力：盆栽&ストーンアカデミー (Bonsai N Stone Academy)

場所：クアラルンプール・レイクガーデン Taman Botani Perdana (2012年、2014年、2015年)

会期：10日間

開催頻度：2年に一回

位置づけ：クアラルンプールをグリーンシティとしてプロモーションする。



(クアラルンプール・オーキッド&盆栽ショー2015。写真提供：盆栽&ストーンアカデミー)

●クアラルンプール・オーキッド&盆栽ショー Kuala Lumpur Orchid & Bonsai Show 2017



主催：DBKL

協力：盆栽&ストーンアカデミー (Bonsai N Stone Academy)

場所：チェラス・ブドゥ・ウル公園

会期：2017年12月4日～10日

2017年に開催された同イベントでは、ブルネイ、インドネシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム、中国、香港、インド、マカオ、日本、台湾など14カ国・地域からの参加、訪問者数は7万人(展示会場はチェラス地区のブドゥ・ウル公園)。盆栽の展示は300点で15センチ未満のミニチュアから120センチ以下まで4種類のサイ



ズの盆栽が展示された。(『The Star』2017年12月4日付け)



(クアラルンプール・オーキッド&盆栽ショー2017。Noryadi Noduddin 氏より提供)

### ●盆栽レース Bonsai & Stone Appreciation - Bonsai Race

2002年に始まったイベントで、盆栽のマテリアルとなる「香松 (Cucur Atap)」のハンティングレース。開催地はトレンガヌ州で、同州のビーチは、質の高い香松が生息する地域として知られている。

主催：Persatuan Seniman Bonsai Malaysia

場所：トレンガヌ州

会期：4～5日間。開催月は決まっていない。

開催頻度：毎年

位置づけ：人気の盆栽マテリアルである香松の採集(山採り)。香松の第一人者 Bohori 氏の

指導の下、香松を採集し、各自が次の作品を手がけられるようにする。

スタート当初は参加者 200 名だったが、その後 300 名と増え続け、2017 年開催のレースでは 500 名以上の参加者を数えた。2018 年は 4 月に開催予定。すでに 1,000 名の参加希望者を受け付けている。インドネシア、フィリピン、台湾、中国からの参加者もいる。



(写真は BCI 発行の季刊誌で掲載された 2017 年開催のレース。盆栽&ストーンアカデミーのホームページより)

### ●Malaysia Wood Art & Suiseki Competition And Exhibition

2016 年が第一回の開催。

主催：盆栽&ストーンアカデミー

場所：VIVA ショッピングモール (2016 年)、サミットショッピングモール (2017 年)

会期：9 日間。開催月は決まっていない。

開催頻度：毎年

位置づけ：自然の木、水石の展示会とコンペ。愛好家の輪を広め、愛好家にモチベーションを高める機会を提供する。

### ●BCI 国際友好ツアー&展示会 2018 BCI International Friendship Tour & Exhibition 2018

盆栽&ストーンアカデミーが BCI の協力のもとに開催する初めての国際的な盆栽ショー。

主催：盆栽&ストーンアカデミー

協賛：BCI

場所：Summit USJ

会期：2018 年 4 月 23 日～29 日

**位置づけ**：マレーシアの盆栽文化を世界に発信する。タイ、ベトナム、台湾、フィリピン、ドイツ、オーストラリア、アメリカなど世界 20 ヶ国からの参加が予定されている。参加者予定数 300 人。

●**MBSS (Malaysia Bonsai & Suiseki Society) Exhibition & Competition**

MBSS が発足してから開催されている盆栽展示会だが、開催は不定期である。91 年開催以降、100 名以上の展示者数を数える。

**主催**：MBSS

**場所**：決まっていない。

**会期**：不定期。

**位置づけ**：盆栽アートの普及と愛好家のモチベーションを高める。

●**2016 年国際盆栽&水石展示会&コンペティション (International Bonsai and Suiseki Exhibition and Competition)**

同イベントでは国王がオープニングに参列し、80 万人が訪れた。また中国、台湾、インドネシア、ベトナム、フィリピン、韓国、シンガポール、インドの盆栽協会から 100 人以上のメンバーが参加した。同イベントでは、MBSS と韓国盆栽栽培者協同組合との間で MOU が締結された。

**主催**：MBSS と Putrajaya Floria Sdn Bhd との共催。および連邦直轄領省と文化観光省からの支援あり。

**場所**：プトラジャヤにある中国・マレーシア友好ガーデン

**会期**：2016 年 5 月

(<http://wbffbonsai.com/index.html> より抜粋)

### 1-7 専門誌の有無、情報

国内で発刊されている盆栽専門誌はない。マレーシアにおける盆栽の情報源は、FB、ユーチューブなど SNS が中心で、愛好家たちは各盆栽クラブ・盆栽師・お互いの FB を頻繁にチェックしている。Chong Hon Thong 盆栽園の Chong 氏、U.A. Bonsai ART の Tan 氏は BCI のメンバーで、そこから定期的に送られる雑誌（年 4 回発行の季刊誌）を購読している。



### 1-8 政府等による振興策の有無

当調査で取材した盆栽協会、クラブ、小売からの取材では、どこからも「全くない」との回答を得たが、前述の DBKL 主催の「クアラルンプール・オーキッド&盆栽ショー」など、州政府などが主催するイベントに「盆栽」がテーマに加わるようになった。

## 2. 盆栽取扱業者（輸出入・卸売、小売）のリスト

マレーシアにおける盆栽取扱業者について、盆栽を専門に扱っている盆栽園は全国に 30 はあると言われるが、そのうち手入れの行き届いた盆栽を扱う盆栽園は 10 ほどではないかとも言われる。盆栽はいまだにマーケットが小さく、造園用の大きいサイズの植木がメインのナーサリー（苗木園）がほとんどということだ。今回取材した盆栽園では、盆栽を作り、輸出入、卸売、小売をしている業者がほとんどであった。

また Soon Li Bonsai Nursery のアドケン氏によると、以前「盆栽用に苗木を育てる」専門業者がいたが、需要がなかったこと、苗木に育つまで時間がかかり過ぎることなどの理由から撤退したという。

今回の調査で取材したすべての業者からは、日本産の盆栽を輸入している業者は現状ないという回答であった。

### ① Sanfong Bonsai & Art Garden（輸入、卸売、小売、盆栽師）



GM191, Lot 980, Jalan Semenyih, 43500 Semenyih, Selangor

019-220 4009

FB:Sanfong-Bonsai-Art-Garden

代表：Benny Sim

設立：2001 年

概要：16 年前に、KL 郊外のスムニエ Semenyih で、盆栽園「Sanfong Bonsai & Art Garden」

を創業。Benny 氏自身は 18 歳から盆栽に興味をもち、金型製造業を営むかたわら、趣味で盆栽いじりをしていた。その後、中国産の安い金型が国内市場に出回り、経営が傾き始めたことがきっかけで会社を閉じ、盆栽園を始めた。

現在、ローカル産 (50%)、台湾産 (20%)、インドネシア産 (30%) の盆栽 30~40 品種を扱っている。台湾からは年に 10~12 回、各 1 コンテナ (2,000 本) を、インドネシアからは年に 3~4 回輸入している。日本からは数年前に、五葉松 (White Pine)、カエデ (Maple)、イヌマキ (Podocarpus Macrophyllus) を 3、4 回輸入したことがあるが、どれも 2~3 年で枯れてしまった。客からのクレーム対応に困り、それ以降は輸入していない。

Benny 氏は MBSS のメンバーで、盆栽師でもあり、盆栽展示会で各種賞を受賞している。

同園で扱う盆栽の値段は、①サイズ、②樹齢、③盆栽展での受賞の有無で異なり、おおまかに以下のとおり。

\*盆栽の大サイズは、マレーシアが 120 センチ以下、台湾は 100 センチ以下、インドネシアは 150 センチ以下。コンペとは、コンペで賞をとった盆栽の金額を指す。

#### 【マレーシア産】

- ・小 (35 センチ) : RM50~200  
コンペ : RM1,000~3,000
- ・中 (70 センチ) : RM2,000~5,000  
コンペ : RM10,000~
- ・大 (120 センチ) : RM8,000~12,000  
コンペ : RM20,000~50,000

#### 【台湾産】

- ・小 : RM2,000~5,000
- ・中 : RM5,000~15,000
- ・大 : RM20,000~40,000

#### 【インドネシア産】

マテリアル売りのみ、RM10 から。盆栽として完成までに 2 年かかるが、完成すると高く売れる。





以下は、Sanfong Bonsai & Art Garden で扱っている品種の一部リストである。

名前	学術名	マレー語	出産国
ガジュマル	Ficus Microcarpa	Pokok Ara	台湾、中国、インドネシア (榕樹)
ウオータージャズミン	Wrightia Religiosa	Melati Santaria	マレーシア (水梅)
カルモナ	Carmona Microphylla	Pokok Tea	中国 (福建茶)
モクセイ科イボタヌキ属の一種	Ligustrum Sinense Lour	Kuku Bukit	中国 (山指甲)
ベニバナトキワマンサク	Redriowered Loropetalum	Pokok Merah	中国 (紅花継木)
サルスベリ	Codiaeum	Zhiwei	台湾 (紫薇)

	Variegatum		
モクマオウ	Casuarina Egiestifolia	Cemara Udang	インドネシア (木麻黄)
ピタンガ	Eugenia Uniflora	Pokok Buah Merah	インドネシア (紅果、扁桜桃)
イブキ	Juniperus Chinensis	Juniper	台湾、中国 (真柏)
ゲッキツ	Murraya Psniculata	Kemuning	台湾、中国、インドネシア (九里香)
サンチー	Triphasia Trifolia	Limau Bukit	マレーシア (山桔)
ミズガンピ	Pemphis Acidula	Sentigi	インドネシア (海芙蓉)
クワ科	Streblus Asper	Senai	マレーシア (山茶)
タイワンウオクサギ	Premna Serratifolia	Bebuas	台湾、中国、インドネシア (寿娘子)
ツゲ属	Buxus Harlandi	Huang Yang	台湾、マレーシア (黄楊)
イヌマキ	Podocarpus Macrophyllus	Loh Hon Song	台湾、インドネシア、マレーシア
グアバ、柘榴の一種	Psidium Guajava	Jambu Batu	台湾 (番石榴)
柘榴の一種	Strawberry Guave	jambu Ficus	台湾 (草莓番石榴)
アセローラチェリー	Acerola Cherry	Pokok Cherry	台湾 (西印度桜桃)
ニレ属	Ulmus Purnila	Yu Shu	台湾 (榆樹)
カキノキ属	Diospyros Ferrea	Gading Gajah	マレーシア、台湾 (象牙樹)
	Baeckea Frutescens	Cucur Atap	マレーシア (香松)
ヒサカキ属	Eurya Emarginata	Cui Micha	台湾 (翠米茶)
ハマボウ	Hibiscus Tiliaceus	Berbaru	台湾 (黄槿)
ムクゲ	Hibiscus Syracus	Berbaru Air	台湾 (水錦花)



カラタネオガタマ	Michelia Figo	Han Xiao	マレーシア (含笑)
タマリンド	Tamarindus Indica	Asam Jawa	インドネシア (阿三樹)
エノキ	Celtis Sinesis Pers	Mao Pu	インドネシア (毛朴)
ジャボチカバ	Myrciaria Cauliflora		台湾 (嘉玉果)
エゴノキ	Ixora Chinensis Lam		マレーシア (仙丹)
コミカンソウ属	Phyllanthus	Cendrawasih/ Jarlipan	マレーシア、インドネシア (叶下珠)
サワラ	Mulberry's	Berry	マレーシア、インドネシア、 台湾 (桑椹)
カキノキ科	Diospyros Montana	Mustam	インドネシア (印尼黒木)

② Soon Li Bonsai Nursery (小売)



Lot 70, Jalan Sungai Buloh, Sungai Buloh, 47000 Selangor

010-548 4045(Mr. Adken Lim)

FB:Soon-Li-Bonsai-Nursery

代表：Sean Lim（創業者）

設立：1999年

**概要：**創業者の Lim 氏は元大工で、1980年代に約2年間、日本へ出稼ぎに行っていた。盆栽に出会ったのはそのころで、帰国してからは趣味で盆栽をやっていた。その後、本格的に盆栽を勉強するために台湾へ。大工仕事の片手間に盆栽をし、家の庭に盆栽園をつくり販売していたが、19年前の1999年に、クアラルンプール市郊外のスンガイプロに同盆栽園を開業する。国内では Lim 氏は盆栽師としても知られている。現在は息子のアドケン氏が園を切り盛りしている。輸入に関しては、以前は台湾から盆栽を輸入していたが、国の検疫制度が厳しいため、現在はやっていない。

アドケン氏は父親の影響で10歳のころから盆栽を始めたという。「マレーシアで盆栽が知られるようになったのは30年前ごろ。当時は中国からの輸入盆栽が出回っていました。盆栽クラブができたり、盆栽展が開催されるなど、一般にも広がってきたのは10年～15年前から。盆栽の種類も増え、手ごろな価格で購入できるようになった。昔は盆栽愛好家といえば、定年退職をした高所得者層がほとんどだったが、最近は30代、40代まで年齢が低くなり、また中所得者層の愛好家も増えてきたように思われる。盆栽愛好家の層の厚みが出てきたのは、インターネットが普及し、手軽に盆栽の情報が入手できるようになったことも要因だ」と、アドケン氏は語る。Soon Li Bonsai Nursery では盆栽のアフターサービスも行っている。そうすることで、2度、3度と購入する固定客が増えてきた。

日本産の品種については、「気候の違いから難しいが、神戸にある盆栽業者がバンコクに輸出した盆栽が育っていると聞いた」とのこと。

### ③ Chong Hon Thong 盆栽園 (輸入、小売、盆栽師)



PT2, Jalan Polis Drive LN SK1/1, 43300 Seri Kembangan, Selngor

03-8948 0455/012-392 0455(Mr. Chong)

代表 : Chong Hon Thong

設立 : 1997 年

**概要 :** Chong 氏の自宅兼盆栽園は中華系マレーシア人が多く住む、クアラルンプール市郊外のスリクンバンガン地区にある。かつてこの地区はスターフルーツなどの果樹栽培で知られており、Chong 氏の両親も果樹農園を営んでいた。小さい頃から果物の木々に興味をもち、盆栽をはじめたのは 23 年前。1997 年に盆栽園を開業した。Chong 氏の盆栽園には輸入盆栽が 9 割を占め、その内訳は、台湾 (7 割)、中国 (2 割) で、残りはマレーシア産。台湾産を多く輸入するのは、人気があるからだという。品種では、真柏、ガジュマル、アセローラチェリーがメイン。

自宅以外にもネグリスンビラン州スレンバン市マンティンに 2.5 エーカーの園をもつ。ここに造園用の植木、中国から輸入した鉢、マレーシア産「チェンガイ」(和名 : セランガンバトゥ *Shorea Seminis*) と呼ばれる木材を保管している。

以前、五葉松を日本で買ったが、2 年弱で枯れてしまった。「気候が違うため、手入れがとても難しい。マレーシアでも高原地のキャメロンハイランドであれば育つかもかもしれない」と Chong 氏はいふ。

「マレーシアの盆栽愛好家は、山採りを好む。マレーシアでは、野生で生息する植物を採取する『山採り』はとてもポピュラーだ。採取地は、トレンガヌ州クアラブスからボートで1時間半のところにある島」。Chong氏はここに自前のボート2艘を停泊させ、「盆栽マテリアル・ハンター」たちに提供し、3年間でタイワンウオクサギなど、1,000本を採取したという。ハンターたちには1本につきRM500~2,000を支払っている。

マレーシアで人気の「ウォータージャスミン」はジョホール州ムアの栽培農家から購入する。ムア産のウォータージャスミンはクオリティが高いという。

ここ1、2年、盆栽人気が上昇している。人々が裕福になったからだという。台湾の盆栽展に行って買う人たちも増えた。今年は日本に行って、土、はさみを購入する予定だ。MBSSとBCIマレーシアのメンバーである。





盆栽愛好家に人気の日本の盆栽用土。

④ 相玉園盆景 U.A. Bonsai ART (小売、卸)



POS 383, Batu 4, Parit Bakar, Jalan Temenggong Ahmad, 84010 Muar, Johor  
017-637 6555

FB: 相玉園盆景 U.A. Bonsai ART

代表 : Tan Chee Peng

設立 : 2010 年

**概要** : 2010 年にジョホール州ムアで開業した U.A. Bonsai ART は、盆栽 5 割、造園用植木 5 割を取り扱っている。扱う品種は台湾原産の真柏から苗木を育ててつくった盆栽と植木、マレーシア産のイヌマキ *Podocarpus Costalis* だ。

真柏の値段はサイズにより異なり、中・大サイズが RM5,500~18,500。小サイズでは RM750~3,200。イヌマキは樹齢とサイズにより、RM16,000~80,000。

同園では真柏の手入れの仕方などを教える盆栽クラス、アフターサービス (RM1,200~) も行っている。Tan 氏は BCI マレーシアのメンバーだ。



## ⑤ Zen Bonsai (生産、小売)



40, Jalan PP4/3, Taman Putra Prima, 47130 Puchong, Selangor

016-205 5738

店舗：No. 168 Level 6, Pavilion, Jalan Bukit Bintang, Wilayah Persekutuan, 55100 KL

FB: Zen Bonsai

代表：Chong

設立：—

**概要：**\*ミニチュアサイズの盆栽だけをつくる生産者で、9年ほど前にクアラルンプール市内にある高級ショッピングモール・パビリオンの「東京ストリート」内に実店舗を開いた。引退後に盆栽を始めて20年になる Chong 氏は日本の盆栽師からミニチュアサイズの盆栽の技術を学び、「昔マレーシアへ輸入された品種やローカル品種の苗木を育ててミニチュア盆栽をつくっている。どんな品種でも盆栽になると思う」と語る。盆栽を始めた当初は中品、大品サイズをつくっていたが、ミニチュアへシフト。苗木に育つまでは一切肥料を与えず、自然の光と水のみ。針金がけ後に日本から取り寄せた有機肥料を使う。

日本産については、沖縄など産地が東京より南であれば、マレーシアでも育つのではないかという。常滑焼のファンでもある。

Zen Bonsai で扱っているミニチュアサイズは、シト (7.5 センチ未満)、マメ (7.5~15 センチ)、小品コタテモチ (15~30 センチ) である。客層は 20 代~60 代まで様々だが、メインは 40 代、50 代である。





\*写真右は、2018年中国正月前1月下旬の週末、クアラルンプール市郊外のショッピングモール内にブースを構え、ミニチュア盆栽のワークショップを行っていた。

⑥ **Michael Siow** 盆栽ギャラリー（輸入、小売、盆栽アーティスト）



No.2, Jalan Bukit Maluri 8, Taman Bukit Maluri, Kepong, 52100 KL

012-332 5793

代表：Michael Siow

設立：1999年

概要：台湾南部から山採りの樹齢100年「ゲッキツ *Murraya Psniculata*」などを輸入。日本産の盆栽については、「品種次第。沖縄で生息している品種であれば育つのではないかと語る。価格は、マレーシア産山採り「カキノキ属 *Diospyros Ferrea*」RM50,000以上、台

湾産「ケヤキ *Zelkova serrata*」(5年前に RM10,000 で購入) RM20,000。盆栽の数は常時 100 鉢以下 15 品種。ローカル産が 5 割を占める。盆栽以外に、日本製の鉢、ハサミなどの道具、肥料、土を扱っている。





第8回世界盆栽大会でのデモ（写真中央が Michael 氏）。

⑦ Min Hoe Yuen Bonsai Nurseries (輸入、卸、小売)



Lot 168, Jalan Sri Mangga, 75250 Melaka

06-334 6708/012-681 0628

代表：Chong Hong Yen

設立：1987年

**概要：**30年前にマラッカで盆栽園を開業した Chong 氏は、国内で「最初に盆栽を輸入した人」として知られる。輸入先は中国・広東省で、その品種は「福建茶 *Carmona Microphylla*」と「ガジュマル」である。現在は台湾（真柏 *Juniperus Chinensis*）、インドネシアからも盆栽を輸入するほか、シンガポール、インドネシア、タイへの輸出も手掛けている。輸出するのはマレーシア・ムア産のウォータージャスミンだ。

チョン氏が盆栽を始めたのは40年前のこと。当時は日本の盆栽スタイルが主流であった。盆栽は盆栽の専門書から独学で学んだという。当時人気だったガジュマルは、「早く育ちすぎる」という理由から、今では影を潜めている。代わりに、マレーシア産のウォータージャスミン、台湾産の真柏に人気が集まっていると語る。

盆栽の卸先は、トレンガヌ州、パハン州クアンタン、サバ州、サラワク州など全国のナーサリー50～60カ所。一年前から注文が増えてきているという。なかでもマレー系の人口密度の高いトレンガヌ州が顕著で、マレー系の盆栽愛好家が増えてきているようである。

Min Hoe Yuen Bonsai Nurseries の人気盆栽トップ5は、「真柏（台湾産）」、「イヌマキ（マレーシア産）」、「ウォータージャスミン（マレーシア産）」、「カキノキ（マレーシア産）、台湾産）」、「香松 *Beackea Frutescens*（マレーシア産）」、「ツゲ（マレーシア産、台湾産）」である。



### ⑧ Taman Sui Mei Bonsai Centre

No.1, Jalan Zahir 8, Taman Malim Jaya, Melaka

06-335 9698/019-655 0199

代表：Mr. Tan

事業内容：Tan氏は、マレーシアで初めて盆栽園をオープンした。Min Hoe Yuen Bonsai NurseriesのChong氏はTan氏の弟子だった。（Sanfong Bonsai & Art GardenのBenny氏よりヒアリング）

### 3. 植物（盆栽）の検疫要件、輸入制度、規制等

#### 3-1 概要解説と運用実態

##### ①概要解説

盆栽はじめ植物を輸入する際は、輸入ライセンスを取得しなければならない。農務省農業局では2017年、植物輸入をする一般へのサービス改善を目的に、OSCAR(One Stop Centre Agriculture Regulatory)を設置した。同センターには病虫害の展示室、輸入規制に関するライブラリーが設置されているほか、同局のスタッフとの相談窓口も設けられ、誰でも気軽に訪問し、相談できる体制が整えられている。

##### OSCAR

Bahagian Biosekuriti Tumbuhan Jabatan Pertanian,

Jalan Sultan Slahuddin, 50632 KL

03-2030 1400



##### ①-1：輸入手続きの手順

植物（Plant）、苗木（Seedling）などを輸入する際は、Plant Quarantine ACT 1976 及び Plant Quarantine Regulation 1981 の5項に従い、以下の手順を踏む。

##### 1) ePermit の登録（登録後、申請許可が下りるまで最長で5日かかる）。

全ての輸入者は、オンライン許可申請システム「ePermit」を通してオンライン登録をする必要がある。ePermit は、税関の情報システム（Customs Information System or Sistem Maklumat Kastam: SMK）及びその他政府機関や原子力ライセンス委員会（Atomic Energy Licensing Board: AELB）などの許可発行機関（Permit Issuing Authority: PIA）とリンクしているため、輸入者がインターネットを使って、許可の申請及びその取得ができるようになっている。輸入許可は輸入申告内容との確認及び通関時に相互参照されるため、電子的にSMK に送られる。

輸入者は、ePermit の登録及び申請をするために、まずオンラインサービスプロバイダーである「\*Dagang Net Technologies Sdn Bhd (Dagang Net)」のウェブサイト

(<http://reg.dagangnet.com/>)

を通じ行わなければならない。登録費は 202 リンギ、輸入許可は 1 年間有効で 212 リンギ、合せて 414 リンギかかる。

\*ePermit に関する情報は、下記ウェブサイトを参照。

<http://www.dagangnet.com/trade-facilitation/epermit/>

\*ePermit 申請に関するガイドは、下記ウェブサイトを参照。

<http://www.dagangnet.com/infosite/eGuide/LTA/Trader.pdf>

\*初めてのユーザー登録については下記ウェブサイトを参照。

<http://www.dagangnet.com/registration/>

(一部引用：ジェットロ。マレーシアにおける医療機器の輸入制度 2017 年 3 月)

#### **\*Dagang Net technologies Sdn Bhd**

Tower 3, Avenue 5, The Horizon, Bangsar South, No.8, Jalan Kerinchi, 59200 KL  
03-2730 0200

同社 1 階には相談窓口が設けられていて、誰でも気軽に輸入手続きについて相談できる。

#### **2) アカウントを作成する (アカウント登録費は最低 150 リンギ)。**

(一つの輸入許可費は 15 リンギ)

\*輸入許可ごとに、Dagang Net へ 5 リンギ支払わなければならない。

#### **3) \*PRA (病害虫リスク分析) フォームに必要事項を記入し、OSCAR へ提出する。**

許可が下りるまで 6~24 ヶ月かかる。許可が下りたかどうかは、Dagang Net のウェブサイト上から確認できる。

\*マレーシアの農務省農業局は、「植物検疫措置に関する国際基準 ISPM」に従っており、PRA を提出しなければならない (ISPM の No.2 と No.11 に準じる。添付資料参照)。

[http://pflanzengesundheit.jki.bund.de/dokumente/upload/5a8f5\\_my3-2016pra\\_import\\_en.pdf](http://pflanzengesundheit.jki.bund.de/dokumente/upload/5a8f5_my3-2016pra_import_en.pdf)

ISPM は、植物に有害な病害虫が侵入・まん延することを防止するために、加盟国が講じる植物検疫措置の調和を図ることを目的とした「国際植物防疫条約 (IPPC)」のもと策定された国際基準の一つ。

(農林水産省ウェブサイト <http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/ippc.html> 参照)。

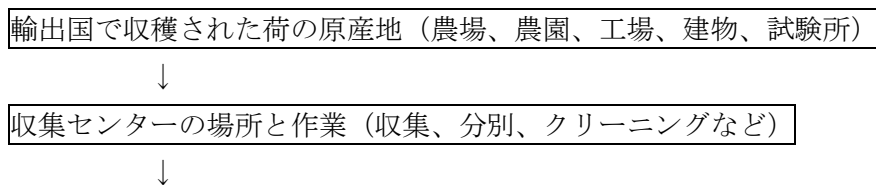
マレーシアは IPPC の加盟国である。

#### **【PRA フォーム記載事項】**

1. 輸入業者の会社名と住所 (電話番号、ファックス、E メール)
2. 運送業者の会社名と住所 (電話番号、ファックス、E メール)
3. 輸出業者の会社名と住所 (電話番号、ファックス、E メール)
4. 荷の学名/植物名 (分類上の属、種)
5. 荷の一般名

6. 生産国
7. 荷の生産地（名前と住所）
8. 輸入する荷に関する詳細（種、生鮮果実、苗木など）
9. 遺伝子組み換え GMO/遺伝子組換え生物 LMO
10. 関税コード（HS コード）
11. 荷の鮮明な写真
12. 荷の梱包材料（黄麻布ジュート、プラスチック袋など）
13. 苗木の高さ（18 インチ以下）
14. 輸入目的（人間が消費する、植栽、加工、動物用飼料、研究、商業用など）
15. 輸入量
16. 輸入する頻度（年間）
17. マレーシアの通関地点
18. 輸送形態（陸上、海上、空運）
19. 輸入方法（カーゴ、クーリエ、ハンドキャリー）
20. 輸入する荷の保管方法
21. 荷が輸出国で検疫処置あるいは梱包された後に保管される最終地点からの距離
22. マレーシアでの最終保管場所（フリートレードゾーンなど）
23. マレーシアでの農園の名前（植栽が目的の場合）
- \*24. 荷が輸出される輸出地点から、マレーシアに入るエントリー地点までのフローチャート
25. フィールド/プランテーション記録
26. 輸出国で実施される処置のタイプ
27. 輸出からエントリーまでの期間（日数）
28. K1 カスタムフォームのコピー
29. 原産国証明書
30. 輸出国の該当（学名/植物名の）検疫証明書のコピー
31. トランジット（どの国に輸出するのか）
32. 再輸出国（どの国に輸出するのか）
33. マレーシア以外への輸出国
34. 農業局は追加情報をリクエストする権利がある。

【\*フローチャート】





加工センターの場所と作業（乾燥、冷却、グレーディングなど）



試験所の場所と作業（サンプリング—実施要項、実験の手順—実験結果など）



梱包センターの場所と作業（梱包の仕方、何個入りのパッケージか、処置前の保管場所）



処置の場所と処置の内容（処置のタイプ {ケミカル率と時間、例えば臭化メチル燻蒸消毒 32g、21 度あるいはそれ以上で 24 時間など}、処置が行われる場所）



輸出の準備（出荷）

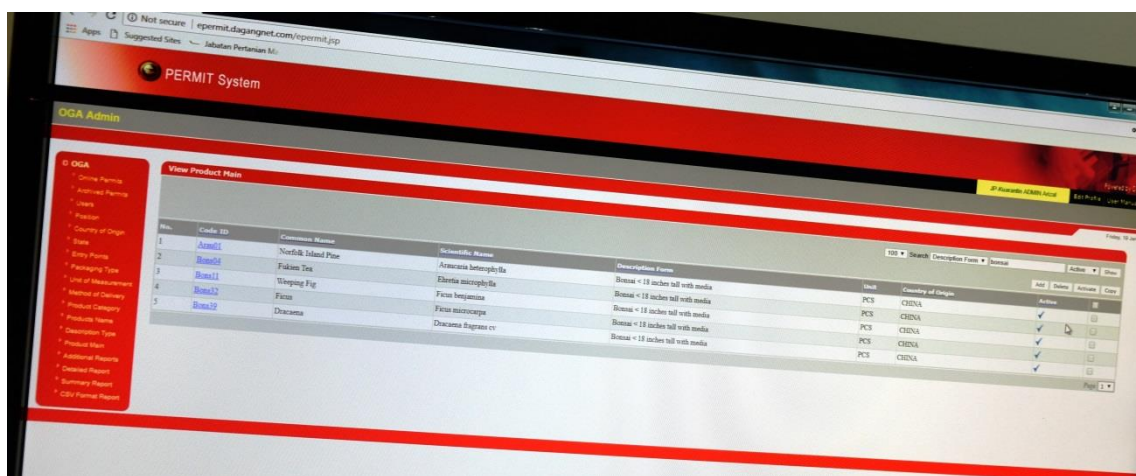
\* 関連情報と写真を添えること。

\* 以上の指示/順序は、輸入荷のワークプロセスによる。

#### 4) Dagang Net のウェブサイトから過去に輸入実績のある品種 (および産出国) であれば、3) の手順を踏まずに輸入できる。

盆栽に関して既に登録済みの品種は、2018 年 1 月 25 日現在、以下の通り、5 品種のみ (中国産) である。土以外のメディアとは苔などをいう。

- ・ ドラセナ *Dracaena fragrans* : 輸入形態は 18 インチ未満で、土以外のメディア付き。
- ・ ガジュマル *Ficus microcarpa* : 輸入形態は 18 インチ未満で、土以外のメディア付き。
- ・ カルモナ (福建茶) *Ehretia microphylla* : 輸入形態は 18 インチ未満で、土以外のメディア付き。
- ・ ノーフォークマツ *Araucaria heterophylla* : 輸入形態は 18 インチ未満で、土以外のメディア付き。
- ・ ベンジャミン *Ficus benjamina* : 輸入形態は 18 インチ未満で、土以外のメディア付き。



Dagang Net のウェブサイトから「Bonsai」で検索した

## ①-2：登録済みの輸入品種

Dagang Net のウェブサイトから「Seedling (3 フィート以下の苗木)」項目で検索すると、2018年1月25日現在、103品種、輸入国13ヵ国(オランダ、タイ、中国、ベルギー、インドネシア、台湾、ドイツ、日本、オーストラリア、スリランカ、ベトナム、アメリカ、フィリピン)である。

うち、輸入国(中国、台湾、タイ、フィリピン、インドネシア、スリランカ)を限定して、盆栽ではないかと思われるものを以下に挙げる。

- ・アザレア *Rhododendron simsii* : 6 インチ未満でメディア付き (中国)
- ・アザレア *Rhododendron simsii* : 18 インチ未満でメディア付き (中国)
- ・モクマオウ属 *Casuarina equisetifolia* : 18 インチ未満でメディアなし (インドネシア)
- ・ブーゲンビリア *Bougainvillea poultonii* : 18 インチ未満でメディアなし (タイ)
- ・カラテナ・マコヤナ *Calathea makoyana* : 18 インチ未満でメディアなし (中国)
- ・ブラックビーン *Castanospermum austral* : 6 インチ未満でメディア付き (中国)
- ・デザート・ローズ *Adenium obesum* : 18 インチ未満でメディアなし (タイ)
- ・ドラセナ *Dracaena fragrans* : 18 インチ未満でメディア付き (中国)
- ・ユーカリ *Eucalyptus cinerea* : 18 インチ未満でメディアなし (インドネシア)
- ・ユーカリ *Eucalyptus urophylla* : 18 インチ未満でメディアなし (中国)
- ・ユーフォルビア *Euphorbia milii* : 6 インチ未満でメディア付き (タイ)
- ・ユーフォルビア *Euphorbia milii* : 6 インチ未満でメディアなし (タイ)
- ・モートンベイ・イチジク *Ficus macrophylla* : 6 インチ未満でメディア付き (中国)
- ・イチジク属 *Ficus Draco* : 18 インチ未満でメディア付き (中国)
- ・ガジュマル *Ficus Microcarpa* : 18 インチ未満でメディア付き (タイ)
- ・ガジュマル *Ficus Microcarpa* : 18 インチ未満でメディア付き (中国)
- ・インドボダイジュ *Ficus religiosa* : 18 インチ未満でメディア付き (台湾、中国)
- ・プルメリア・オブツサ *Plumeria obtusa* : 18 インチ未満でメディア付き (インドネシア)
- ・マンネラン属 *Furcraea gigantea* : 18 インチ未満でメディアなし (インドネシア)
- ・五葉松 *Pinus parviflora* : 18 インチ未満でメディアなし (中国)
- ・イロハモミジ *Acer palmatum* : 18 インチ未満でメディア付き (中国)
- ・イブキ *Juniperus chinensis* : 18 インチ未満でメディアなし (台湾、中国)
- ・ギンヨウセンネンボク *Draceana draco* : 6 インチ未満でメディア付き (中国)
- ・ホウライショウ *Monstera deliciosa* : 18 インチ未満でメディアなし (台湾、中国)
- ・ホウライショウ *Monstera deliciosa* : 18 インチ未満でメディア付き (中国)
- ・ネオレゲリア・カロリナエ *Neoregelia carolinae* : 18 インチ未満でメディア付き (タイ)
- ・ネオレゲリア・カロリナエ *Neoregelia carolinae* : 18 インチ未満でメディアなし (タイ)
- ・ネオレゲリア・ファイヤーボール *Neoregelia fireball* : 18 インチ未満でメディアなし (タイ)

- ・ネペンテス・フスカ *Nepenthes fusca* : 18 インチ未満でメディアなし (スリランカ)
- ・ネペンテス・ハイブリッド *Nepenthes hybrid* : 18 インチ未満でメディアなし (スリランカ)
- ・ネペンテス属 *Nepenthes robcantleyi* : 18 インチ未満でメディアなし (スリランカ)
- ・ネペンテス・ハイブリッド *Nepenthes hybrid* : 18 インチ未満でメディアなし (タイ)
- ・イヌマキ *Podocarpus macrophyllus* : 18 インチ未満でメディアなし (台湾、中国)
- ・イヌマキ *Podocarpus macrophyllus* : 6 インチ未満でメディア付き (中国)
- ・イヌマキ *Podocarpus macrophyllus* : 18 インチ未満でメディアなし (台湾、中国)
- ・ポインセチア *Euphorbia pulcherrima* : 6 インチ未満でメディア付き (中国)
- ・ブラッサイア *Schefflera actinophylla* : 6 インチ未満でメディア付き (中国)
- ・スパティフィラム属 *Spathiphyllum sensation* : 18 インチ未満でメディア付き (中国)
- ・ティランジア・アンドレアナ *Tillandsia andreana* : 6 インチ未満でメディアなし (タイ)
- ・ティランジア・イオナンタ・フエゴ *Tillandsia ionantha fuego* : 6 インチ未満でメディアなし (タイ)
- ・ティランジア・アンドレアナ *Tillandsia andreana* : 6 インチ未満でメディア付き (フィリピン)
- ・ティランジア・ストリクタ *Tillandsia stricta* : 6 インチ未満でメディアなし (タイ)
- ・ティランジア・イオナンタ *Tillandsia ionantha* : 6 インチ未満でメディアなし (タイ)
- ・ザミオкульカス属 *Zamioculcas zamiifolia* : 18 インチ未満でメディア付き (中国)
- ・ザミオкульカス属 *Zamioculcas zamiifolia* : 18 インチ未満でメディアなし (中国)

### 3-2 関連法令リスト

- ・植物検疫法 *Plant Quarantine ACT 1976*
- ・植物検疫規則 *Plant Quarantine Regulation 1981*
- ・植物検疫措置に関する国際基準 *ISPM No.2 & No.11*

### 3-3 関係法令のうち、関係部分の翻訳

#### ① 定義

##### ・植物の定義 (*Plant Quarantine ACT 1976* 第2条)

「植物」とは、生死に関わらずあらゆる植物種また部分を意味し、幹、枝、塊茎、球根、穀物、切り株、穂木、切り穂、取り木、挿し木、吸い枝、根、葉、花、果実、種等のあらゆる部分と、分離、接着しているかに関わらずあらゆる植物製品を含み、熱、及び乾燥処理された植物製品は含まれない。

##### ・土の定義 (*Plant Quarantine ACT 1976* 第2条)

「土」とは、いかなる、土壌、地面、他植物が育つ天然に存在する有機的及び鉱物的物質を

意味する。

## ②禁止事項

\*\*は別途添付。

### ・土輸入の禁止（植物検疫規則 Plant Quarantine Regulation 1981 第3条）

土そのもの、根や植物の他の部分に付着したものを\*構成地域に輸入してはいけない。

\*構成地域とは、当法令の履行目的において西マレーシアを構成する地域、連邦直轄領ラバン、サバ州、サラワク州を意味する。（植物検疫法 Plant Quarantine ACT 1976）

### ・無許可での植物等の輸入の禁止（植物検疫規則 Plant Quarantine Regulation 1981 第5条）

第1項：いかなる植物、根付け堆肥、他生育媒体の構成地域への輸入は、規則と長官が許可承認して課した条件に従って、植物については\*\*第1別表、生育媒体、根付け堆肥については\*\*第6別表の許可書がある場合を除いて禁止する。

第2項：第6条に含まれる禁止と制限に従って、構成地域への輸入植物の荷物には、\*\*第2別表に含まれている植物検疫証明書、もしくは再輸出国から\*\*第7別表に含まれている再輸出用の植物検疫証明書、もしくは関係国の植物保護機関の担当官名で署名された書類が添付されていなければならない。または構成地域の場合には、該当植物が生育している構成地域の長官が荷物の発送の14日前までに荷送り人に対して発行し荷物に添付されていなければならない。

#### 【第6条：パラゴムの木の輸入制限】

第1項：他の国、他の構成地域からのいかなる種類のパラゴム(Hevea)属の植物も構成地域内への輸入が禁じられている。但し以下は除く－

- (i)研究用途の輸入；
- (ii)長官に委託された輸入；及び
- (iii)輸入に先立って、長官では出せない助言を出せるマレーシアゴム研究機関に照会された場合。

第2項：アメリカ熱帯地方や南アメリカ黒葉枯れ病が発生しているもしくは発生していると思われる他の国からの蔓延、伝播がありうるパラゴム属のいかなる植物も構成地域内への輸入は、第1項の条件に加えて以下に該当しない場合は禁止されている。植物が－

- (i)東南アジアと太平洋地域、南アメリカ黒葉枯れ病が発生しているアメリカ熱帯地方や他の地域や国の外に位置する検疫目的で長官が承認したパラゴム用の植物検疫所にて十分な期間生育した；
- (ii)害虫が発見されなかった；また
- (iii)(i)(ii)の必要条件が満たされ該当検疫所の担当官が署名した証明書が添付されている。

第3項：アメリカ熱帯地方や南アメリカ黒葉枯れ病が発生しているもしくは発

生していると思われる他の国からのいかなるパラゴム属の種子も構成地域への輸入は、第1項の必要条件に加えて以下に該当しない場合には禁止されている。

種子が一

- (i) 東南アジアと太平洋地域、南アメリカ黒葉枯れ病が発生しているアメリカ熱帯地方や他の地域や国の外に位置し検疫目的で長官が承認した場所で検査、消毒がなされた；
- (ii) 新しいコンテナに新しい梱包材で再梱包された；また
- (iii) (i)(ii)の必要条件が満たされ該当検疫所の担当官が署名した証明書が添付されている。

第4項：アメリカ熱帯地方や南アメリカ黒葉枯れ病が発生しているもしくは発生していると思われる他の国からの蔓延伝播がありえない（生鮮もしくは乾燥植物標本）パラゴム属のいかなる植物も構成地域内への輸入は、第(1)項の条件に応じ該当植物が調査他長官が承認した他の目的に必要な、長官が十分と考える方法で原産国にて消毒された場合を除き禁止されている。

第3項：植物、有益生物、根付け堆肥、土、その他の生育媒体は、第3条と第5条第1項と4項の各許可書に明記されている指定された入国検問所を通してのみ輸入することができる。

第4項：有益生物の構成地域への輸入は、規則と許可書に裏づけされて長官が課す条件に従い、\*\*第8別表に含まれる長官が発行した許可書を除いて禁止する。

第5項：第4条第1項(a)(b)(c)段の下に免除され、\*\*第9別表に含まれているアカマダラカツオブシムシ(khapra beetle)が見つかった国から輸入された植物は、長官によって決定された投棄率に準じて輸出国によって処理され、該当する植物荷物には植物検疫証明書を添付しなければならない。

#### 【第4条：規則の不適用】

第1項：当規則は以下には適用されない。

- (a) 消費、医療、加工、製造のために輸入する植物
- (b) 加工された植物
- (c) 梱包、梱包材に使用される植物もしくは植物の部分

第6項：第4条第1項(a)に関係なく、他の構成地域、フィリピン、インドネシアで生産されたココアの鞘、ランブータン、プラサン pulasan、ロンガン、ナムナム nam-nam 果実の輸入は禁止する。

#### ・植物一般の輸入制限（植物検疫規則 Plant Quarantine Regulation 1981 第7条）

アメリカ熱帯地方や南アメリカ黒葉枯れ病が発生している他の国からの植物等は以下の場合を除き禁止されている。

(i) 調査目的の輸入；

(ii)長官宛の輸入；また

(iii)該当植物が、東南アジアと太平洋地域、南アメリカ黒葉枯れ病が発生している、もしくは発生していると思われるアメリカ熱帯地方や他の地域や国の外に位置する、検疫目的で長官が承認した場所で検疫、処置の対象となっている、またこの検疫、処置の場所の担当官が署名した証明書が添付されている。

・ **輸入の根絶と危険な有害生物の監督（植物検疫規則 Plant Quarantine Regulation 1981 第9条）**

第1項：\*\*第4別表に設定された危険な害虫の輸入は禁止されている。

第2項：構成地域内に輸入された危険な有害生物、長官が特に危険性を認識している他の有害生物に感染していることが明らかな植物、または該当植物が入れられていた容器は、一刻も早く破壊されなければならない。

第3項：長官は、構成地域内での危険な害虫、有害植物の発生を防除またはマレーシアに存在する場合その根絶と監督のために必要な支援を一般市民、軍隊、海軍、放送、警察など、差し当たってマレーシア国内で設立された機関、部隊に命令することができる。

③ **輸入植物の検疫**

・ **植物検疫申告（（植物検疫規則 Plant Quarantine Regulation 1981 第17条）**

構成地域に入国するいかなる人物も\*\*第10別表に提示された植物検疫申告書の記入が要請されており、指定された入国検問所でその申告書を提出しなければならない。

・ **構成地域内に輸入された植物の検査、検疫、措置、破棄（植物検疫規則 Plant Quarantine Regulation 1981 第10条）**

第1項：構成地域内に輸入された植物について、指定された検問所の輸入管理官は、長官が担当する場所に留め置き、解除令を出す長官の管理下に保管され、もし病気にかかっているもしくはその疑いがもたれた場合は、破壊、廃棄することができる。

第2項：構成地域に持ち込まれた植物は、入国した場所もしくは長官が許可する他の場所で輸入管理官によって検査されなければならない。

第3項：長官は、構成地域内に持ち込まれ、病気の疑いのある植物、植物の部分の検疫処置、破壊の方法を決定できる。

第4項：構成地域内に持ち込まれた植物の輸送、検査、検疫、処置、破壊を含む損失や費用が発生した場合、輸入者が負担する。

但し、長官が裁量でその全てもしくは一部を輸入者から免除する場合がある。

第10条A：病気にかかっている、有害生物が蔓延していると合理的に思われる非植物品目、運搬装置は検査、処置に従う。

・ **法律に違反して持ち込まれた植物の廃棄（植物検疫規則 Plant Quarantine Regulation 1981 第11条）**

構成地域に持ち込まれた植物が法律に違反する場合、輸入管理官がそれを留め置き、長官が

命じる方法で廃棄することがある。

・植物は責任者の事前許可なしに輸送機関から移動してはならない（植物検疫規則 Plant Quarantine Regulation 1981 第 12 条）

第 1 項：直接輸送、間接輸送される植物、有害生物は、長官が妥当と判断する条件を与える事前許可なしに構成地域内に持ち込まれた輸送機関から移動させてはならない。

第 2 項：第 5 条の条項は直接及び間接に輸送される植物に適用される。

・植物検疫官の権限（植物検疫規則 Plant Quarantine Regulation 1981 第 13 条）

第 1 項：輸入管理官は、持ち込まれた当法律に違反するいかなる植物も押収できる。

第 2 項：植物検疫官が、いかなる人物、その所有品、私物、運搬装置に当規則の条項に違反する植物、土、有害生物、有用生物、根付け堆肥、生育媒体、非植物品目が含まれていると判断した場合、植物検疫官は合法的に該当人物を検査、調査のために拘束し、また該当私物、運搬装置を押収、当規則が規定するいかなる行動も遂行できる。

第 3 項：植物検疫官は、有害生物が蔓延すると思われる他国、他の構成地域から到着した船舶、車両、航空機に乗り込み、生ごみ、手荷物、有害生物、根付け堆肥、土を含む有用生物、容器、生育倍体、非植物品目を検査、処理、廃棄する権限をもつ。

#### ④罰則

・罰則（植物検疫規則 Plant Quarantine Regulation 1981 第 14 条）

第 1 項：以下に該当するいかなる人物も違反の罪を負う。

(a)当規則の輸入検査官の権限の行使、義務の遂行を故意に抵抗、妨害、遅延させる者。

(b)他の構成地域、外国から有害生物や植物を悪意をもってもちこむ者。

(c)合理的な理由なしに輸入管理官が要求する情報提供を怠る、拒否する、故意に虚偽、不十分な情報を提供する者。

(d)本人、他人に関わらず、許可、検疫証明書他の書類を入手するために、虚偽と知りながら、または正確か不確かか不明、正確ではないと知りながら申告と供述をする、もしくはそういう申告と供述を利用する者；

(e)当規則の条項に違反する者。

(f)当規則の下に発行された許可書に基づいて長官が認可する制限と条件に従わない者、もしくは

(g)\*\*第 10 別表に提示された植物検疫申告書の記入を怠ったり、拒否したり、そこに虚偽の情報を提供する者。

第 2 項：第 1 項の(a)(c)(d)(e)(f)(g)の違反の有罪判決では、違反者は RM1,000 以下の罰金、あるいは 6 ヶ月以内の懲役、もしくは両方が課される。

第 3 項：第 1 項の(b)の違反の有罪判決では、違反者は植物検疫法 1976 の第 19A 条に提示された刑罰が課される。

【植物検疫法 1976 第 19A 条】

当法律の条項、その下に設けられた規則に違反する、しようと試みる、させる、違反することを許可する、幫助する、違反する行動、条項の遂行を怠る者は、違反の罪を犯したことになります、有罪判決を受ける。罰金が明確でない場合でも、RM10,000 以下の罰金、あるいは2年以内の懲役、もしくは両方の有罪判決を受けることになる。

## ⑤費用

### ・輸入許可書の発行、植物、植物製品の検査にかかる費用（植物検疫規則 Plant Quarantine Regulation 1981 第 15 条）

第 1 項：積送品に関する輸入許可書の発行費用は RM15 で、発行日から 3 ヶ月有効である。

第 1 項 A：有効期限が切れた輸入許可書は RM5 を支払えば、有効期限日から 1 ヶ月を超えない期間で一回限り延長することができる。

第 2 項：以下の費用は、検査官、植物検疫官の荷物や施設の検査、有害生物の消毒、植物や植物製品の処置に対してかかるものである：

(i)(a)最初の一人 1 時間当たり（1 時間以内であっても） \$ 10

(b) 2 時間目の一人 1 時間当たり（1 時間以内であっても） \$ 10

(c)追加の一人 1 時間当たり（1 時間以内であっても） \$ 10

(ii)検査官が検査官のオフィスの施設以外の荷物がある場所で消毒を検査監督する、もしくは野外で育成されている作物の消毒の検査監督を行う場合、検査監督に費やされる時間には現場までの往復の時間も含まれる。

(iii)検査官、植物検疫官が消毒や処置を行う場所では、消毒や処置を行うのにかかる化学薬品や資材にかかる費用はその時々責任者が決定する料金に応じて荷送り人、荷受人が負担しなければならない。

(iv)荷送り人、荷受人から要請を受けた荷物、施設の検査を行う検査官、植物検疫官の超過時間手当ては場合により以下荷受人が負担しなければならない—

(a)通常の勤務時間外の 1 時間当たり RM4；および

(b)週末、祝日の場合は 1 時間あたり RM8

第 3 項：航空機、列車他陸上移動いずれの旅費であっても検査監督をする目的の行程に関する限り請求される。行程の全体もしくは一部が陸移動であれば、1 キロメートル（それ以下であっても）当たり RM0.50 課金される。

第 4 項：いかなる人物の適用もしくは輸入許可に記載された輸入条件の下で必要とされ、検査官がマレーシア国内であれ国外であれ勤務する職場から離れた場所に検査に赴く場合、必要最低限の手当て、宿泊の費用は政府の現行料金に従って該当人物が長官に返金する。

第 5 項：検査官は、その裁量で特定の荷物の検査に加えて植物製品の発送元の検査をすることがあり、その場合荷送り人は該当検査に関して第 2 項に記載された料金を支払わなければならない。

### ・植物保留にかかる費用（植物検疫規則 Plant Quarantine Regulation 1981 第 16 条）



以下の料金は輸入後の検疫のもと植物を保留する、もしくは輸入者がすぐには移動させられない場合に課される—

- (i) 各植物の保留、輸入後の検疫の第 1 週目一日ごと \$ 2
  - (ii) 各植物の保留、輸入後の検疫の第 2 週目一日ごと \$ 3
  - (iii) 各植物の保留、輸入後の検疫の第 3 週目一日ごと \$ 4
  - (iv) 各植物の保留、輸入後の検疫の第 4 週目一日ごと \$ 5
  - (v) 植物が輸入後の検疫期間中に観察段階に成長した場合 \$ 10
- (vi)(i)(ii)(iii)(iv)(v)に関わらず長官がその裁量でこれらに課す料金に代わって一括徴収することがある。

⑥植物検疫措置に関する国際基準 ISPM No.2 &No.11

(<http://www.maff.go.jp/pps/j/law/ispm/ispm.html>よりダウンロードした該当箇所を添付)

- ・ No.2 : 病害虫リスクアナリシスに関する枠組み
- ・ No.11 : 検疫有害動植物のための病害虫リスクアナリシス

マレーシアにおける盆栽類の輸出可能性調査

2018年3月作成

---

作成者 ジェトロ（日本貿易振興機構）クアラルンプール事務所／関東貿易情報センター  
〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32

Tel. 03-3582-4953

---